


Link つながる Live 生きる Learn 学ぶ Labour 労働 Liberty 自由



エルコンパス

宝塚市立男女共同参画センター・エル

2021年3月 Vol.44

宝塚市立男女共同参画センター・エルは、すべての人が個人として、性ととられず、自分らしくいきいきと充実した生活を送ることができる「男女共同参画社会」の実現を目指すための施策推進の拠点施設です。センターの愛称“エル”は上記の5つのLの頭文字をとったもので、市民からの公募で決定しました。

特集

男女共同参画の視点を取り入れた地域防災の取り組み

ファッションとジェンダー～明日あなたは何を着る？～	P.1
男女共同参画の視点を取り入れた地域防災の取り組み	P.2～P.3
講座案内：4月～7月・情報図書	P.4～P.6
貸室予約システム変更のお知らせ	P.7
施設利用案内	P.8

ファッションとジェンダー自分らしさの再考～明日あなたは何を着る？



当センターで昨年末から今年にかけ、女性セミナー【ファッションとジェンダー自分らしさの再考】として、テキストレーターのはらだ有彩さんと京都精華大学ファッションコース准教授のあしだひろし 蘆田裕史さんをお迎えし、【装いは「見られる」もの？「ジャッジされるもの」？】【自由なファッション・不自由なファッション】と題した講演&ワークショップを開催しました。ファッションには自己表現と同時に、自分の性別や属性といった社会的なカテゴリーを表す役割もあります。私の場合、学生時代はみんなと同じ制服を着るのが嫌でその後は古着ファッションにはまり、それを大いに楽しんでいたのですが、出産した頃から周りから浮かない様な無難な服ばかりを選ぶようになり「私の好みってこんなだった？」と“ママっぼい”服がずらりと並んだクローゼットの前で、ある日あ然とした経験があります。

当時の私は、無意識にすり込まれた“らしさ”を気にしすぎていたのだと思いますが、その“らしさ”とは所詮、限られた時代や社会の中で人が作り出した概念だという事に、講演を通して改めて気づき、これからはまた自分らしさを表現できるファッションを楽しんでいきたい！と思いました。お二人の話に共通していたのは、「誰もが自分の好きな服をためらうことなく着られて、それが受け入れられる社会がいつか実現するように・・・」という想い。その一歩に必要なのは、私やあなたが「心から好き」と思える服を身に着けたり、人の装いをジャッジしなくなった時には、そこにどんなバイアスがあるのか立ち止まって考える事かもしれません。(編集者 Y)

特集

男女共同参画の視点を取り入れた地域防災の取り組み



一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと代表理事 小山内世喜子さん

男女共同参画社会づくりに向けた活動を始めて20数年。青森県男女共同参画センターには2002年の開設時から勤務し、2006年の指定管理導入後は副館長、館長を歴任。女性支援や女性の人材育成、男女共同参画の推進に取り組む。東日本大震災を契機に「防災と男女共同参画」をテーマに、「男女共同参画の視点を取り入れた避難所運営訓練」、「防災人財育成研修」等、県内外で140箇所以上実施するとともに、女性リーダーの育成にも取り組んでいる。

「避難所に授乳室や赤ちゃんのオムツを変える場所、子どもの勉強する場所があることを初めて知った。母親の立場になって考えるととても助かるし、安心できる避難所が必要だと思った(中3・女)」。令和2年に実施した【中学生防災教育プログラム-避難所運営体験】に参加した生徒の感想です。

一般社団法人男女共同参画地域みらいねっと(以下、【地域みらいねっと】)では、令和元年度から、青森市の中学校のべ16校、3014人の生徒対象に男女共同参画の視点を取り入れた防災教育を実施しています。



私の活動のきっかけ



私が【防災と男女共同参画】をテーマに取り組みはじめたのは、東日本大震災時、防災・復興に男女共同参画の視点がない、女性防災リーダーがいないことにより、「避難所では、お母さんが安心して赤ちゃんにおっぱいをあげる場所がない。女性だからという理由で炊き出しの仕事を押し付けられる。保育所や介護施設が被災して、子どもや老親を預けることができなくなった女性が仕事を辞めざるを得なくなる」といった、多くの困難事項が生じる中で、「非常時だから仕方がない」、「これぐらいは我慢しなければ」と、災害により女性や脆弱な状況にある人たちが、声を上げることも難しい状況があったことです。

今や、災害はどこでおきても不思議ではありません。教訓として、非常時において女性に負担が集中することがないように、地域での【男女共同参画の視点を取り入れた防災の取り組み】が必要と考えました。

当時、私は青森県男女共同参画センター指定管理者として事業運営を担っており、平成24年に文部科学

省の助成金事業を活用し、【あおもり被災地の地域コミュニティ再生支援事業実行委員会(以下、「実行委員会」)]を立ち上げ4年間取り組みました。

そして、【男女共同参画の実践的理解に繋がる避難所運営訓練(以下、「避難所訓練」)]と【地域防災人財育成(女性リーダー含む)]を大きな柱として、青森県をはじめ、東日本大震災の被災地でもある八戸市、三沢市、おいらせ町、階上町の男女共同参画担当や防災担当、地域自主防災組織、女性消防団など、地域事情に応じた多様な組織と共に連携し、分野横断型で取り組みました。



中学生防災教育プログラム-避難所運営体験の様子



おいらせ町での地域防災の取り組み



当時のおいらせ町のまちづくり防災課危機管理専門員は、航空自衛隊を定年退官し、町に採用されたばかりでした。その専門員はのちに「避難所訓練を町の総合防災訓練の一つとして実施したところ、町民のアンケートには『避難所訓練が一番良かった』というコメントが多かったことと、『避難所訓練を行ってみて、男性では到底発想できないことばかりで、目から鱗が落ちる思いの訓練だった』という意見をいただき、この訓練の継続が大切だと痛感した」と語っていました。おいらせ町での取り組みは初年度の女性特有のニーズの理解や運営側への女性の参画に加えて、町の要望で

次第に障碍（がい）者や若年層の参画といった新たな課題を設けて、多様性配慮の視点も取入れた避難所訓練に拡大していきました。また、【中学生と地域住民が一緒に取組んだ避難所運営訓練】では、専門官は「地域防災の鍵は、人に対する思いやりや人と人とのつながりにあると思った。子どもたちと一緒に地域による避難所訓練を継続することは、将来の地域防災の礎になると確信している」と、明言しています。



地域みらいねっとの活動



平成29年に法人として地域みらいねっを立ち上げ、実行委員会の活動を継承し、被災地の市町はもちろんのこと、各自治体と連携しながら防災に取り組んでいます。青森県防災危機管理課では、平成30年度から【女性の参画による防災力向上事業】に取組み、地域みらいねっが企画立案、講師となり3年間続けてきました。

私たちが開発する研修プログラムで大切にしていることは【学び】【気づき】【考え】【行動・実践】【ふりかえり】というプロセスです。座学、ワークショップを経て、避難所訓練を行います。訓練の遂行以上に、事業を進めるプロセスで“参加者にいかに気づきを起こさせるか”に力点を置いています。男女共同参画という言葉は知らなくても、女性たちは日々の生活の中で何かしらの生きづらさを抱えており、その気づきにもなります。

ワークショップの課題解決では、避難所運営には女性の視点、生活者の視点が求められることから、女性の主体的な発言や行動が促進され、一人ひとりが自信に満ちた発言を繰り返していきます。また、多様な価値観に触れ、共有・共感、互いを認め合う気持ちが醸成され、自己肯定感が高まり、自信に繋がっていくことが感じられます。これは、個人のエンパワーメントのみならず、平時の地域参加や自治体施策にも結びつけられています。

実行委員会で三沢市淋代地区の女性を対象に、避難所訓練を実施した際、町内会の女性役員のNさんから「女性役員は私一人で何も言えない、できないことにジレンマを感じていました。しかし、この研修を通して女性たちが集まり、意見を出し合い、行動してみる

ことで何かができる事を実感し、女性部会を立ち上げました」という手紙をいただきました。今では防災のみならず、地域リーダーとして活躍しています。



参加者主体の防災訓練



これまでの防災訓練は、参加者が指示を受けて行動する“受身型”の訓練が多かったように思います。しかし、地域みらいねっの訓練は、住民自身の気づきが危機意識と行動に直結すると考え、参加者の主体性を尊重し合意形成を図り進めています。災害時はマニュアル通りに物事が進まないことも多く、命を守るためにも、考え、判断する力が必要だからです。



女性防災リーダー育成研修の様子



場の共有がネットワークの構築に



冒頭で紹介した【防災教育プログラム】も、避難所運営体験では段ボールベット、間仕切りはもちろんのこと布団や毛布、赤ちゃん用品などたくさんの小道具を持ち込み、避難所づくりを体験します。プログラムの内容も講義から体験、ワークまで多様であり、準備にもパワーが必要な取組みで地域みらいねっのメンバーだけではマンパワー不足と感じていました。ところが、今年度は【中学生防災教育】に興味を持ち、「やってみたい」という県内の団体・個人が協力隊としてのべ43人が参加してくれました。子どもたちの目の輝きを目の当たりにし、一緒に汗を流すことで、防災仲間としてのネットワークに繋がっています。

このように“場の共有”により、男女共同参画の視点を持った仲間（リーダー）が増えていくことをうれしく思います。災害時のケア役割、失業、暴力の問題の背景には社会構造の問題があります。その理解者が増えることで、平時におけるジェンダーの問題の解決にも繋がっていきます。

特集

男女共同参画の視点を取り入れた地域防災の取り組み

地域みらいねっとでは、毎年【防災カフェ】を開催し、学びと交流の場づくりをしています。3月には【東日本大震災から10年—その時、わたしは。そして未来への課題】をテーマに、参加者一人ひとりが自分の言葉で震災の経験や教訓、その後の防災・減災活動をふりかえり、未来にむけた想いを語り合います。

私たちの取り組みは単なる防災知識の向上ではありません。

防災研修等を通して、人権、女性の意思決定への参画、ケア役割やDV、性暴力の問題、今年度は感染症の問題まで、多くの気づきを得ることができます。それは、長年、男女共同参画の視点をもち、課題に取り組んできていたからだと思っています。これからも防災をツールとした【誰一人取り残さない社会づくり】に貢献していきたいと思っています。



講座案内

4月~7月

講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

親子育ちセミナー

4月5日（月）から受付

5月15日（土） 10:00~12:00

新1・2年生のための CAPワークショップ

CAPとは子どもがいじめや虐待などの暴力から自分で自分の身を守るためのプログラムです。子どもの力を引き出すエンパワメントプログラムに参加してみませんか。ロールプレイの劇を交えながら、明るく楽しいプログラムです。

- 対象：こどもワークショップ：小学校新1・2年生 20人（子どもが参加される場合は、保護者の参加が必要）
おとなワークショップ：大人 30人（保護者・祖父母・子どもに関わる大人の方等）

☆大人だけの参加も大歓迎！

- 保育：10人（1歳~就学前まで） 要予約・先着順

※NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西スタッフが担当します。



4月5日（月）から受付 保育申込5月13日（木）17時締切

5月21日~6月18日（毎週金曜日）全5回 10:00~12:00

スター・ペアレンティング ~たかす 甘やかさず 子育てする方法~



自分自身を大切にしながら、楽しみながら子育てする方法を取り入れてみませんか？子どもとの接し方を教えられた機会が少なく、この子育てでいいのかな…と不安になったり、自分に自信を持ちにくくなっている方へ♪5つのポイントと4つのプロセスを使ったこの講座で、子どもの年齢や気質に合わせた子育てのヒントを見つけましょう☆

- 講師：竹下 郁代さん・奥平 恭子さん
(NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ)

- 対象：子育て中の方、子どもに関わるおとな 30人

- 保育：10人（1歳~就学前まで）

要予約・先着順 締切5/13（木）17時まで

5月21日	概論スター・ペアレンティングとは？問題をさける
5月28日	良い行動を見つけ出す
6月4日	感情を認める
6月11日	限度を設ける
6月18日	新しいスキルを教える・まとめ



講座案内

4月～7月

講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

男女共同参画基礎講座

5月6日（木）から受付

6月5日～6月26日（毎週土曜日） 全4回 10:00～12:00

男女共同参画スタディーズ 2021

～コロナ禍で見えてきたジェンダー平等へのこれから～

働き方や暮らし方、価値観などに様々な変化をもたらしたコロナ禍では、職場や家庭、地域などでジェンダーの不平等が色々な形で露呈しました。コロナを乗り越え、誰もが自分らしく、誰一人として取り残さない社会を実現するために、私たちが身近な所から行動出来る事を、一緒に考えてみませんか？

6月5日	コロナで女性に何があった？～DV被害女性やシングルマザー支援の現場から～ 正井 禮子 さん 認定NPO法人女性と子ども支援センターウィメンズネット・こうべ代表
6月12日	コロナ時代～改めて問われる「男性問題」のこれから～ 伊藤 公雄 さん 京都産業大学 現代社会学部 教授
6月19日	みんなでつくる“黙らない社会”～抵抗感をとき「意見」を言うために～ 富永 京子 さん 立命館大学 産業社会学部 准教授
6月26日	なぜ、日本はいつまでもジェンダー不平等なのか？ 田上 時子 さん NPO法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長



- 対象：テーマに関心のある方 40人
- 保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

女性セミナー

5月6日（木）から受付

6月25日～7月9日（毎週金曜日） 全3回 10:00～12:00

パートナーは発達障害かも…と悩む わたしのための講座

なぜか話が通じない、気持ちが伝わらない、意味も分からずキレられる…など、発達障害（未診断も含む）のパートナーの言動に日々振り回され「家族だから、私の気持ちもわかってほしいのに！」という寂しさやイライラが募っていく…。そんな悩みのある方が、自分自身を大切にするための講座です。

6月25日	大人の発達障害を理解し、頑張りすぎない関わり方を学ぼう 米田 和子 さん NPO法人ラヴィータ研究所理事長
7月2日	カサンドラ症候群って？当事者の体験談と抜け出す方法を聞いてみよう 安喜 蓮華 さん カサンドラ・サポートセンター代表
7月9日	自分自身を大切にするために。抑え込んできた自分の気持ちを語りあおう！ 田上 時子 さん NPO法人女性と子どものエンパワメント関西 理事長



- 対象：テーマに関心のある女性 20人
- 保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

講座案内

4月~7月

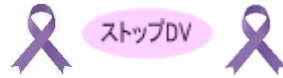
講座はすべて要予約。
参加費・保育は無料です。
申込電話番号：0797-86-4006

パープルリボンカフェ

予約不要・当日センターにお越しください

5月25日(火) 7月27日(火) 10:00~12:00

パープルリボンカフェ



皆でパープルリボンづくりをしませんか？リボンにお好みの飾りをつけるだけ。お茶を飲みながら手を動かして、みんなで“わいわい&ちくちく”しましょう！フレンドシップキルトもあります。

●持ち物：裁縫道具（お持ちであれば糸・針など。センターでも用意しています。手ぶらでどうぞ♪）

☆一時保育はありませんが、お子さん連れも参加OKです☆

ほっとサロン

6月3日(木) から受付

6月30日(水) 13:30~15:00

親子で楽しむキッズルーム

お子さんを遊ばせながら、気になることを話してみませんか ★キッズルームでお待ちしています★

フリートークのテーマ：【話してリフレッシュ！わたしの息抜きの仕方】

簡単工作：七夕かざり



●対象：乳幼児とその保護者 10組

●進行：NPO 法人女性と子どものエンパワメント関西 スタッフ

7月30日(金) 10:00~12:00

わたしに戻る 読書の時間

情報・図書コーナーにある図書や雑誌を読んでリフレッシュ。

子育てからちょっと一息、時には『ママ』から『わたし』に戻る時間を過ごしてみませんか。



●対象：子育て中の女性 20人

●保育：10人（1歳～就学前まで） 要予約・先着順

飲み物つき

情報図書

女性問題の解決や男女共同参画社会をめざすさまざまな活動をサポートする情報を収集し

発信しています。図書貸出は[お一人5冊・2週間]です。宝塚市在住以外の方も借りられます。



図書担当のおススメ本



「これからの男の子たちへ」
太田啓子
2020/08 大月書店

著者は息子二人を育てるシングルマザーで、離婚などを扱う弁護士。学校や家庭など子育ての日常生活で、「男らしさ」を良しとする価値観が、性差別、性暴力の原因や、男の子の生きづらさになっていないかなど、子ども時代に起きがちな出来事に沿ってわかりやすく書かれています。大切なのは、自分の弱さを認めること。自分を男らしさに縛りつけずに解放していくこと。「男らしさの呪いに縛られて生きるのもうやめていいよ!」とかつて小さい男の子だった大人の男性にも読んでほしいと思いました。



「CHOICE」
シオリーヌ (大貫詩織)
2020/12 イースト・7月

前回のエル・コンパスで特集した性教育。性にまつわる問題は学校の性教育だけで足りるのだろうか…と、子どもを持つひとりの親としては気になっていましたが、この本では助産師でYouTuberのシオリーヌさんが、この問題を明るく取り上げています。生理やSEXのことだけではなく、心に起きる変化や外見至上主義についてなど、思春期の子どもに知っておいてほしい事も詰まっています。この本をきっかけに子どもと性について話をしてみてはいかがでしょう。

貸室予約可能日変更のお知らせ

交流室・ プレイルームの 貸室予約が便利 になります！

令和3(2021)年
4月～
実施開始



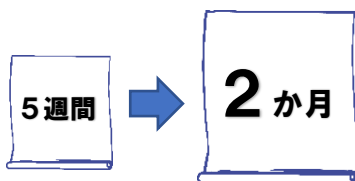
一般及び個人の方の予約可能日が

2か月先 までのご予約が
可能になりました！

センターでは交流室(5室)とプレイルームを有料でお貸ししており、グループ活動や会議、講演会等にご利用いただけます。4月より予約可能日が延長され、ご予約が便利になります。この機会に駅チカで利便性に優れたセンター交流室を利用してみませんか？



予約可能日



今まで5週間先までの予約が可能でしたが、2か月先までご予約できる期間が延びて便利になりました！

※利用登録グループは3か月と1日前から予約可能です。

2回目以降、継続してご利用の場合



インターネットの施設予約システムから仮予約ができます。更に申請書の記入用紙が簡素化されます。

仮予約後は1週間以内に窓口にて申請が必要です。
詳しくはセンタースタッフまでお気軽にご相談ください。

感染予防対策実施中



宝塚市立男女共同参画センターでは、新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドラインに沿って講座等を開催致します。ご利用にあたっては随時HP等をご確認の上ご協力をお願いいたします。

- ・当日、体調の悪い方はご参加頂けません。あらかじめご自宅で体温をチェックしてからご来館ください。
- ・参加される方はマスクの着用をお願いいたします。
- ・利用時は、適宜手洗い・手指のアルコール消毒にご協力ください。
- ・講座中に換気の時間を設けます。

施設利用案内



詳しくはセンター、またはセンターのHPで
<https://www.takarazuka-ell.jp>
 電話番号：0797-86-4006

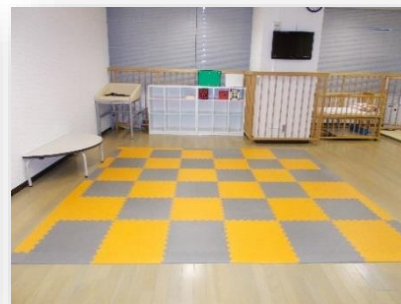
学習交流室等のご利用

センターでは、学習交流室（5室）とプレイルームを有料でお貸ししています。

グループ活動・ミーティング・講演会等にご利用いただけます。

活動内容・利用者の居住地により受付開始日や料金が異なりますので、詳しくは受付までお問い合わせください。

※営利を目的とした活動（「カルチャー教室」や「おけいこごと」の指導者による利用を含む）はご利用いただけません。



女性のための相談室

予約番号：0797-86-4006

電話相談	月・火・木・金・第2、3、4土曜日 10:00~12:00 / 13:00~16:00 直通電話（予約不要）：0797-86-3488
面接相談	第2・4水曜日 10時～、11時～、12時～ ※要予約・相談時間 50分
法律相談	第1土曜日（原則） 14時～、14時45分～、15時30分～、16時15分～ ※要予約・相談時間 45分（市民対象 原則1人1回限り）
起業相談	第1・3水曜日 10時～、11時～ ※要予約・相談時間 60分
チャレンジ相談	第1水曜日（原則） 11時～、12時～、13時～ ※要予約・相談時間 50分

※電話相談以外はすべて一時保育あり（要予約） 年末年始及び祝日の全相談業務はありません。

セクシュアルマイノリティ電話相談

専用電話番号：0797-71-2136

毎週水曜 15:00~18:00（祝日・年末年始を除く）（問い合わせ：宝塚市役所 人権男女共同参画課）

自分の性や性的指向に伴う相談をはじめ、さまざまな相談に応じます。本人、家族、友人、教員などどなたでも相談できます。

宝塚市立男女共同参画センター・エル

指定管理者

NPO法人 女性と子どものエンパワメント関西

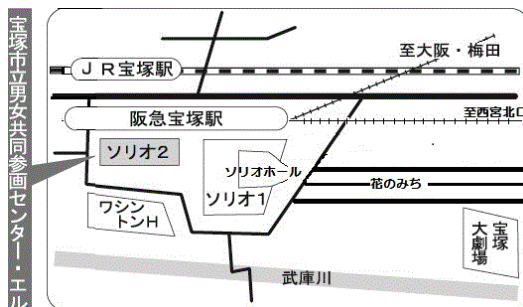
開館時間：月曜日～土曜日（9:00～21:00）

日曜日・祝日（9:00～17:00）

休館日：毎月第2日曜日・年末年始

〒665-0845 宝塚市栄町2-1-2「ソリオ2」4階

TEL：0797-86-4006 FAX：0797-83-2424



ホームページ：https://www.takarazuka-ell.jp/
 メール：elsenternpo-empower@takarazuka-ell.jp